

転機を迎えた水田農業・米産業と 産地戦略を考える

2025年**2月6日(木)** 13:00~17:00 **7日(金)** 9:00~12:00会場 **JAビル2階 3207・3208会議室** (全農) **オンライン参加可**(zoom使用)

開催趣旨

平年作にもかかわらず令和の米騒動・価格高騰が生じた要因は、現在の水田政策における制度疲労にある。この点は、政府及び与野党が水田政策の抜本的見直しを提起していることであらわれている。

さらに、2040年の主食用米の需要量予測は農水省が493万t、全米販が375万tである。また、米・麦・大豆土地利用型の予測(基本計画作成部会)によると、経営体が20年の60万から30年には27万へ、面積が216万haから142万haへ大幅に減少する。以上の予測は、水田農業の存立の危機を示している。以上の状況を克服するための産地戦略の構築が求められている。

まず、基調講演の「転機の水田政策・農業と産地戦略」では、水田政策の制度疲労と水田農業の負のスパイラルから脱却し、米を増産する方向への転換とJAの課題を提起する。

さらに、各JAによるマーケットイン型の米販売・水田農業の取り組み、多様な水田営農経営体・農家の支援・育成、各種施設の運営、再編策等の実績と新たな事態への対応を交流し、議論する。そのことを通じて、新たな事態に対応し、将来を見据えたマーケティングを基礎とした販売から生産までの産地戦略とその構築への課題、JAの役割を検討する。

発表者と発表内容

基調報告

転機の水田政策・農業と産地戦略

——制度疲労と令和の米騒動

吉田俊幸 (農政調査委員会理事長)

水田政策の制度疲労と水田農業の負のスパイラルから脱却し、米を増産する方向への転換とJAの課題を提起。

《事例報告①~④》 4JAより、マーケットイン型の米販売・水田農業の取り組み、多様な水田営農経営体・農家の支援・育成、各種施設の運営、再編策等の実績と新たな事態への対応などを実践報告。

事例報告① 地域で取り組む米の安定供給

JA 上伊那

三澤宏樹 (営農経済部米穀課課長)

事例報告② JAぎふの水田農業戦略の実践

JA ぎふ

辻有記臣 (営農部部长)

事例報告③ 米の大産地を支える協同活動の総合コーディネート

JA えちご上越

岩崎健二 (常務理事)

事例報告④ 広域合併で抱える米環境をめぐる課題と 地域生産体制の確立

JA レーク滋賀

川端均 (常務理事)

事例報告のタイトルはすべて仮です

プログラム

1日目 2月6日(木)

- 12:00～ 受付
- 13:00～ 開会挨拶
◆黒澤 賢治 (JA 総合営農研究会 代表委員)
- 13:15～ **基調報告**
転機の水田政策・農業と産地戦略
——制度疲労と令和の米騒動
◆吉田俊幸 (農政調査委員会 理事長 / JA 総合営農研究会 副代表委員)
- 14:10～ **事例報告①** JA 上伊那
地域で取り組む米の安定供給 (仮)
◆三澤 宏樹 (JA 上伊那 営農経済部 米穀課課長)
- 15:25～ **事例報告②** JA ぎふ
JA ぎふの水田農業戦略の実践 (仮)
◆辻有記臣 (JA ぎふ 営農部部長)
- 16:30～ 質疑・討論
◇ ◇ ◇ ◇ ◇
- 17:30 交流懇親会 (会場未定) ～20:00



参加費 (一人あたり)

- 会員 (交流懇親会費込み)
 - 会場参加：17,000円 (正会員・生産法人会員・団体特別会員で2人目以降は14,000円)
 - オンライン：12,000円 (正会員・生産法人会員・団体特別会員で2人目以降は9,000円)
 - 非会員 (交流懇親会費込み)
 - 会場参加：22,000円
 - オンライン：17,000円
- ※ 今回から、オンライン参加の参加費を会場参加とは別に設定します。
 ※ 事前にお振り込みください (振り込み先は別途お知らせします)。
 ※ 参加費に宿泊費は含まれていません。宿泊は各自でご手配ください。

JA 総合営農研究会に入会し、実践交流しませんか？

- ☆ 入会案内パンフレット (入会申込書付) がございますので、お問い合わせ・ご請求ください。
TEL：048-233-9336 (農文協 担当：嶋川)
- ★ 年会費
 正会員 20,000円 * 単位農協 (県1JAについては地区事業本部等)
 生産法人会員 5,000円 * 集落営農、農業生産法人
 特別会員 団体50,000円 個人5,000円



JA 総合営農研究会ホームページ
ja-it.net

次回の公開研究会案内や過去の報告内容などを掲載しています。

2日目 2月7日(金)

- 9:00～ **事例報告③** JA えちご上越
米の大産地を支える
協同活動の総合コーディネート (仮)
◆岩崎健二 (JA えちご上越 常務理事)
- 9:50～ **事例報告③** JA レーク滋賀
広域合併で抱える米環境をめぐる課題と
地域生産体制の確立 (仮)
◆川端均 (JA レーク滋賀 常務理事)
- 10:55～ **3事例のまとめとコメント**
◆仲野隆三 (JA 総合営農研究会 副代表委員)
- 11:10～ 総合討論
- 11:55 閉会・連絡事項 (～12:00)



参加お申し込み方法

JA 総合営農研究会ホームページ上の参加申し込みフォームからお申し込みいただけます。

JA 総合営農研究会

検索



申し込み締切 2025年1月31日 (金)

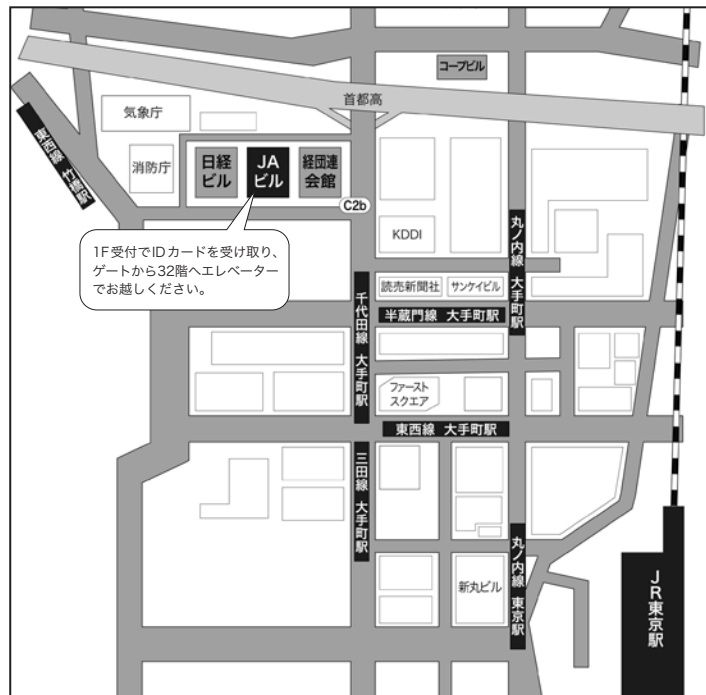
※ 締切日を過ぎてのお申し込みは、事務局宛で相談ください。

問い合わせ先：JA 総合営農研究会事務局
 (一社) 農文協 経営局文化活動グループ内
 TEL: 048-233-9336 E-mail: info@ja-it.net

会場

JAビル2階3207・3208会議室 (全農)

▶ 地下鉄「大手町」駅 (地下1階にてC2b出口直結)



※ **JA 総合営農研究会** JA 営農経済事業の改革と地域農業の活性化に向け、全国のJA 役職員が課題を共有しながら先駆的事例を双方向に学びあう実践的な研究会。2001年に「JA-IT研究会」として設立。約40のJAを正会員とし、年3回の「公開研究会」と年1回の「人材養成セミナー」などを中心に活動する。2019年6月に「JA 総合営農研究会」と改称した。